全史料協・企業史料協主催「資料保存セミナー」@埼玉会館（2011/2/4）

「ケルン市歴史文書館倒壊と市民による救助活動」

松下 正和[1]

はじめに

■自己紹介

・専門は日本古代史。兵庫県内の自治体史編さん（ex）新宮町・加西市・香寺町・神戸市など

・2002年から、兵庫県・大阪府内の自治体や住民団体と地域連携事業

（ex）財産区文書・自治会文書・旧家文書の調査・保全・活用

・1995年から地震・水害により被災した民間所在史料の保全活動　**歴史資料ネットワーク**

（ex）地震対応は、95年阪神・淡路大震災、2003年宮城県北部連続地震、04年新潟県中越地震、06年ジャワ島中部地震、07年能登半島地震など

水害対応は、04年三条水害・福井水害・台風23号（兵庫北部、京都北部）、05年台風14号（宮崎）、09年台風9号（兵庫県佐用町・宍粟市）など

各地の“史料ネット”づくりの支援　被災史料レスキュー

■ケルン市歴史文書館との関わり

・「ケルン市立歴史文書館救援のためのサイト」（Japanese Solidarity for theCologneHistoricalArchive）

http://groups.google.co.jp/group/japanese-solidarity-for-cologne-historical-archive（管理人：猪刈由紀氏）

（ex）2009年3月3日：ケルン市歴史文書館倒壊

3月18日：大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館より被災史料救済・処置方法について問い合わせあり

3月22日：佐々木和子氏から史料ネット活動を英語でまとめたものがないか問い合わせ

4月8日：新潟ネット矢田俊文氏のMLで「ケルン市歴史文書館支援に関する署名のお願い」

「ケルン市歴史文書館支援に関する署名のお願い」を史料ネットブログにアップ

7月2日：「ケルン市歴史文書館救援の会への募金依頼」を同ブログにアップ

・2009年7月から科学研究費補助金・基盤研究（S）「大規模自然災害時の史料保全論を基礎とした地域歴史資料学の構築」（研究代表者＝奥村弘・神戸大学）のプロジェクトを補佐。

（ex）2009年11月13日「ケルン市歴史文書館研究会」開催@神戸大

ヘルムート・ヘードル氏（グラーツ大）「ケルン市歴史文書館の被害と復興の現状について」

平松英人氏（ハレ大）「ケルン市歴史文書館倒壊と市民アーカイブ構想」

コメント：猪刈由紀氏（上智大）

（ex）2010年8月24日

ケルン市歴史文書館（Historisches Archiv der Stadt Köln）倒壊現場・仮施設を訪問

現地ではヘルムート・ヘードル、平松英人、井上周平諸氏のアテンドを得て聞き取り調査

■本報告の課題

ケルン市歴史文書館の倒壊から被災史資料の救出、被災後の取り組み、市民の参加、日本の支援活動の状況と国際交流のあり方などについて話題提供したい。

---

[1] 神戸大学大学院人文学研究科特命講師。歴史資料ネットワーク副代表。macchan@lit.kobe-u.ac.jp

1．ケルン市歴史文書館の倒壊と史資料救出活動

（1）倒壊したケルン市歴史文書館について

・規模　かつては自治体による文書館としてはアルプス以北で最大

・建物　市内の別の場所から移転　1971年建築

通りに面した高層部分（地上7階、地下1階）

1階部分はエントランスとロビー、特別展のための展示室　2階～7階部分が収蔵庫

その奥の平屋建て部分　受付と閲覧室、オフィスと修復作業所があった

「ケルン・モデル」70年代以降の欧州における文書館建築のモデルとして各国で採用

（ex）収蔵庫を自然空調　特別展のためのスペース　利用しやすいレファレンス体制

・収蔵史料　10世紀から現在までの膨大な史資料[2]　市の行政文書も受け入れ　書架延長約30km

・キャパ　建設当時約30年分の収容能力を期待　実際には2001年以前より容量オーバー　学校地下室などに

・当時の利用状況　利用者数の伸び悩み　市民からの関心も低い　→建物・設備の老朽化　抜本的改修なし

（2）地下鉄工事の開始と立地

・数年前から文書館前の通り（セヴェリーン通り）の下を北から南へ向かって地下鉄の穴が掘られる

・市当局は安全性が検証されたとして強引に工事

・立地　ライン川の近く　大量の地下水が湧くような所　排水のための青い配管が町中に

（3）文書館の倒壊と被害状況

▲倒壊直後の様子（平松氏提供）

・2009年3月3日　ケルン市歴史文書館倒壊

・7階建ての建物が完全に倒壊　左右の建物も文書館につられて倒壊

・がれきの上にビニール　がれきの下には収蔵品

後に雨よけの覆い屋根ができて回収作業開始

・倒壊のメカニズム：地下鉄工事現場の壁面の一部が壊れ、文書館下の土壌が穴に流れ込み、文書館もその中に崩れ落ちた

・救出作業は地下水脈（図の楕円部分）まで及んだとのこと

（約20%の史資料が埋もれているとのこと）

・すでに5月中に、全体の80%に相当する、回収可能な史資料が掘り出されたとのこと

・平屋部分に保管されていた約500,000点の写真・フィルム資料は4,000点の証文書とともに無事

→無事だった証文書がケルン大司教区歴史文書館に移送

・1年ほど救出作業、修復には200人のアーキビスト・修復専門家が専任で取り組んで30年かかる量？

（4）救出の過程

・マニュアルの有無　火災時などの館内の行動マニュアルのみで役に立たず

・作業チャート図を参照

・レスキュー動画を参照

---

[2] 「最古のものは922年という証文書65,000点、地図や図面104,000点、遺品や遺稿780点を数えました。そこにはケルン史に関する史資料はもちろんのこと、アルベルトゥス・マグヌスの手稿やノーベル賞受賞者ハインリヒ・ベルの遺稿など、さらにその枠を超える重要な文化遺産もが含まれます」（猪刈氏HP）

※文書館職員から出た教訓・大規模災害時の危機管理のあり方

フレキシブルな対応　柔軟に対応できる組織　臨機応変に動ける人材を普段から育成

アーキビストと修復専門家との緊密な協力体制づくり

ボランティア（約2000名）の効率的な組織化　明確な指揮体系と責任の所在　関係者間での密な連絡

2.「デジタルケルン歴史文書館」プロジェクト

（1）文書館の再建と文書の修復にむけて

・文書館の再建（2015年の予定？）

ゲーリング地区（聖ゲレオン教会周辺）、メッセ（ライン川対岸地域）、あるいは元のセヴェリーン通りに再建する案が出ていたが、2009年9月17日にKöln Süd 地区のEifelwallに再建すると市議会で決定

→現在は仮施設で開館中　マイクロフィルム等の複製史資料が公開

・オリジナルの閲覧に向けて文書の修復

史料群ごとに修復・再分類・公開へ　22万点（ピース）を5年以内に　断片をつなぐソフト開発予定

・マイクロフィルムのデジタル化（ドイツ研究協会の資金援助）

・倒壊後はアーキビスト・修復専門家・技術職員が増員された。35→70名　2011年には150人に

・個々人がもつ文書館の史資料の複製をネット上で公開・共有

（2）「デジタルケルン歴史文書館」プロジェクト（Das digitale Historische Archiv Köln[3]）

・利用者サイドから生み出されたプロジェクト

ケルン大学美術史講座を拠点とする「プロメテウス協会」とアンドレアス・ルッツ博士（ボン大学歴史学講座ライン地域史分科助手）が中心となって立ち上げたプロジェクト　倒壊の数日後

ケルン市歴史文書館やケルン市から出た話ではない

・「デジタルケルン歴史文書館」ポータルサイトの全体構想

ケルン市歴史文書館の利用者が所有している史資料の複製（コピー、マイクロフィルム、写真、デジタルデータ）をポータルサイトで文書館の分類体系に基づいて集中的に収集・管理、利用者相互で共有

インターネット上でバーチャルなデジタル文書館を再建しようという構想

個々人が所有している情報をネット上で公開・共有することで、文書館の再建に利用者も一翼を担う

世界中からアクセス可能　利用者登録後所有データをアップロード・必要なデータをダウンロード可

（Uploads: 107.336、user：869　2011年1月）（訪問者数200-250/日、2-3000頁/日　09年6月段階）

・後にケルン市歴史文書館もこのプロジェクトに参加

①利用者が所有している複製　だけではなく

②文書館が保存しているマイクロフィルム（1815年以前の文書館の所蔵品の大部分があり）

③救出、修復された史資料

→①～③をデジタル化してDBに統合。最終的には文書館の全収蔵品をインターネット上で再構築予定

・「デジタル閲覧室」の整備　実際の閲覧室がバーチャルに再現された環境

①デジタルアーカイブ　デジタル化された収蔵品

②デジタルライブラリー　デジタル化されたレファレンス資料（辞書、史料集、ケルン市関連資料、論文）

③文書館および利用者相互のネットワークの構築　知識や情報の共有　双方向のコミュニケーション

[3] www.historischesarchivkoeln.de

※デジタルケルン歴史文書館が文書館再建に果たした役割

デジタル化された史資料を共有することですぐにでも館の利用を再開できる環境を整える

提供された史資料が、今回の倒壊で完全にまたは一部分喪失した史資料の唯一の代替となることも

※利用者が所有している複製を即座に利活用できる条件　日本に比して個人情報の問題をクリアしやすい？

（3）市民アーカイブ構想

・デジタルケルン歴史文書館が、文書館再建に、利用者・市民が関わっていく一つの中心的なプラットフォームになる可能性

・文書館再建にいかに市民をまきこめるかが課題

←文書館側の危機感（倒壊の遠因である行政による人員・経費削減、市民による無関心）の大きさ

3. 日本人の西洋史研究者による救援活動

（1）救援活動の開始

・2009年3月3日　文書館倒壊事故

・　3月4日　ケルン諸団体が連名で瓦礫に含まれている文書を守るための屋根を設置するよう要望（歴史系団体、建築・美術・教会関係者など）

・　3月6日頃　日本でも活動が開始される

日本側の活動の目的（猪刈氏）

①現地で救援に携わる人々への支援、②文書館の国際的な重要性を訴え現地での救援活動を後押しする、③日本国内で事故の被害について訴え、認識を深めてもらう、④海外の文書館を利用した経験のある研究者、また利用を予定している人の間の連携を深める

「ケルン市立歴史文書館救援のためのサイト」開設、4/30まで署名を呼びかけ

・　5月4日　州知事、文化大臣、ケルン市長、同市文化局長宛に賛同者一覧（171名）と趣意書を添えて公開書簡を送る

（2）ドイツ・フランス側との連携

・ボン大学歴史学科ライン地域史部門　日本人留学生の留学先

・ケルン歴史協会

・ソルボンヌ大学　フランスの中世史家からも提出

（3）署名提出後の反応

・メディアの反応

フランクフルター・アルゲマイネ新聞（5/7）「極東からの郵便」

ケルニッシュ・ルンドシャトウ新聞（5/10）「日本人がデジタル文書館開設を迫る」など

・行政の反応

シュミット＝チャイア館長・文化大臣らより礼状（7月）

おわりに

■ケルン市歴史文書館側がかかえる課題

修復までに莫大な時間・経費　ほこり・泥の除去　人材難

一方で倒壊後に変化　事故を契機に出来たネットワークを活用　市民とのさらなる協力（友の会も3倍）

「市民アーカイブを確立できそう」「市民生活の一部に文書館を位置づけた」との答え

■国際連携の意味　「よそ者」の効用　若手の動き

■資料保全のありかたに関する国際比較研究

　人や史料（特に洋紙への対応）や体制　行政・研究者・ボランティアとの関係　史料の残り方の特質

■日本での文書館・アーカイブズ業界の動き　海外や国内館・自館の大規模災害・事故後の対応は？

※「無関心」というわりにはドイツではボランティアの多さと、対応のスピードの早さ

※日本では？　ボランティアは館・行政の施設に入りにくい　文化的土壌？個人情報の壁？

【参考文献】

・高津秀之「ケルン市立歴史文書館の倒壊について」（『歴史学研究』856、2009年8月）

・平松英人・井上周平「ケルン市歴史文書館の倒壊とその後―復興への道筋と「市民アーカイブ」構想―」（『歴史評論』714、2009年10月）

・「特集「ケルン市歴史文書館」の倒壊と救済活動」（史料ネット『ニュースレター』61号、2010年1月）

　松下正和「ケルン市歴史文書館研究会概要」、石井大輔「「ケルン市歴史文書館研究会」参加記」

http://www.lit.kobe-u.ac.jp/~macchan/nl61.pdf

・奥村弘編『第2回地域歴史資料学研究会報告書　文書館救済・防災に関する日独比較研究』（科学研究費補助金基盤研究(S)大規模自然災害時の史料保全論を基礎とした地域歴史資料学の構築、研究代表者：奥村弘 課題番号：21222002）（神戸大学大学院人文学研究科、2010年3月）所収

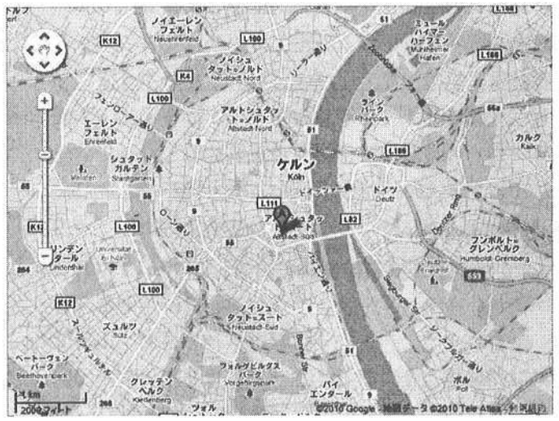
　平松英人「ケルン市歴史文書館倒壊と市民アーカイブ構想ーデジタルケルン歴史文書館の可能性ー」

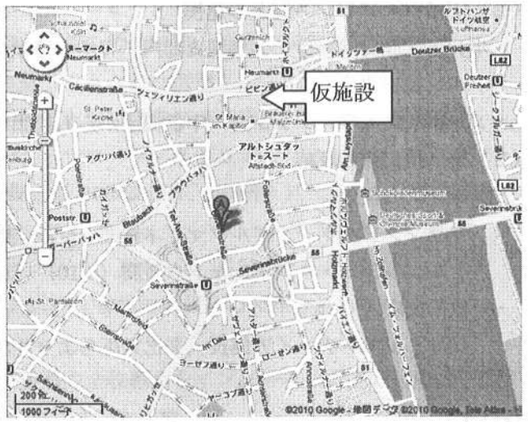
　猪刈由紀「日本におけるケルン市歴史文書館救援活動ー経緯と進展ー」

　井上周平「アーカイブズと市民：ドイツと日本における史資料保全ーケルン市歴史文書館と史料ネットを例にして」

http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81002298.pdf

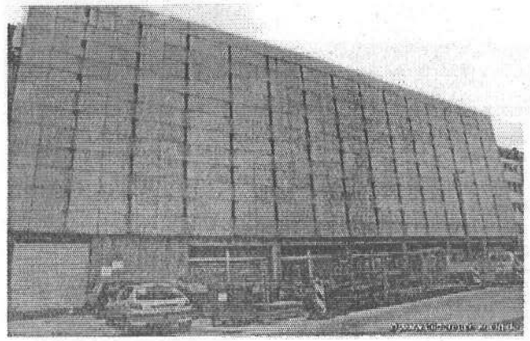
【参考資料】



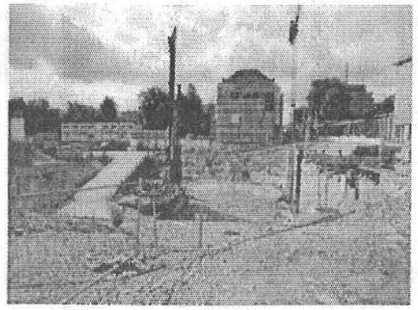


▲倒壊したケルン市歴史文書館の位置

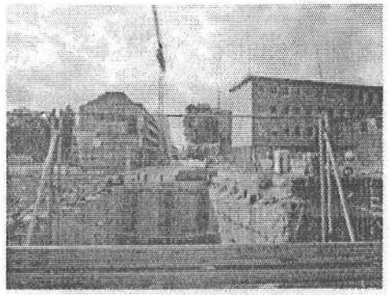
（Historisches Archiv der Stadt Köln Severinstr. 222-228, 50676 Köln, Deutschland・0221 2212327）



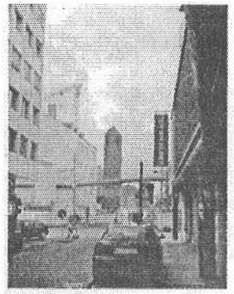
▲元のケルン市歴史文書館（平松氏提供）



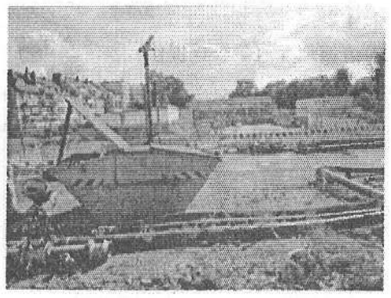
▲文書館跡地（10/8/24 松下撮影）



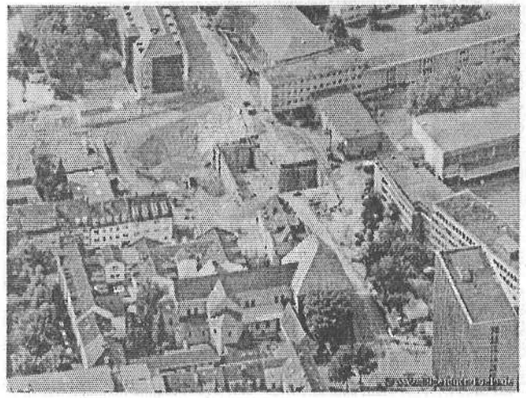
▲文書館前の地下鉄工事穴（10/8/24 松下撮影）



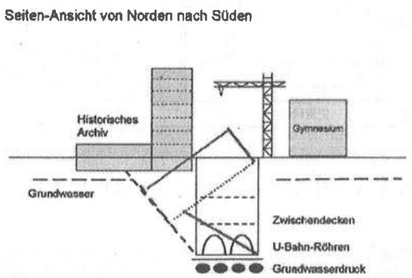
▲工事で傾いていた Severin 教会（同左）



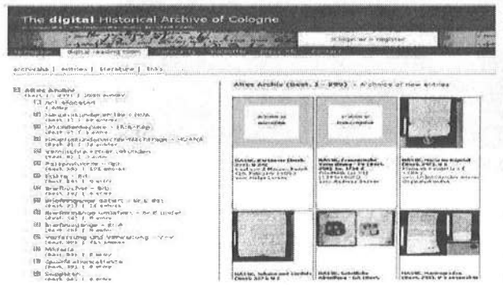
▲文書館跡地



▲文書館上空からの様子。館前の道が Severin 通り。その直下に地下鉄を通す予定（ヘードル氏提供）

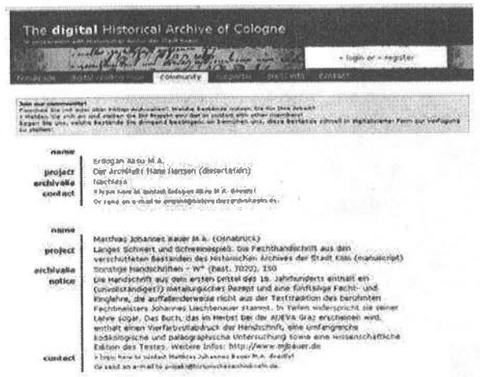


▲事故の模式図（文書館 HP より）

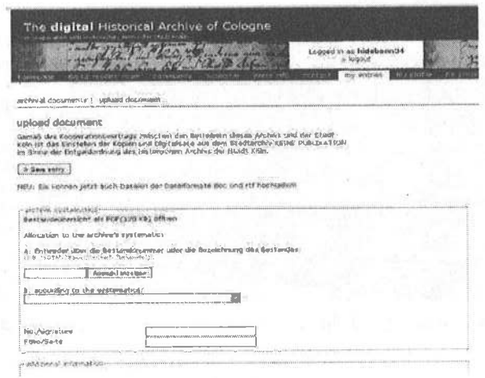


←デジタルケルン歴史文書館 HP　検索例（平松氏提供）と拡大画像

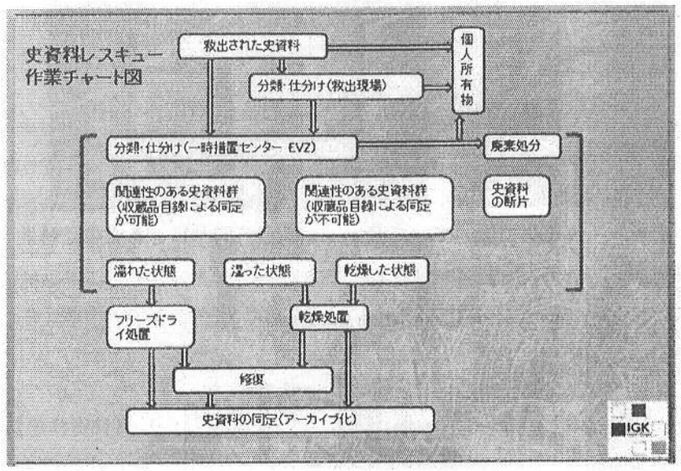
http://www.historischesarchivkoeln.de/index.php?lang=en



▲文書情報画面（平松氏提供）



▲アップロード画面（平松氏提供）



▲史資料レスキュー作業チャート図（平松氏提供）

▲　被害状況の展示

▲左の建物が仮施設（2010/8/24 松下撮影）

▲臨時の閲覧室（同左）